

熱はお子さんを守る反応です 熱が出てあわてなくて大丈夫！

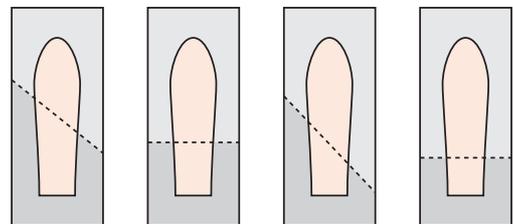
- ・ 解熱薬の使用の目安は 38.5℃以上で、熱で眠れない、飲めない、ぐったりしているときなどです。体を楽にするために使うことができます。解熱薬を使っても早く治すことはできません。高熱であっても、水分がとれて、そこそこ元気があれば解熱薬を使わず様子を見て大丈夫です。
- ・ 子どもの解熱薬の基本はアセトアミノフェンです。解熱薬はお子さん用に処方されたものを使いましょう。

▶ 座薬の使い方

座薬を指示された大きさに切りましょう。包装を外さず、清潔なハサミやカッターで切ってください。ワセリンやオリーブオイルなどで滑りをよくしましょう。肛門部分が一番痛みを感じやすいので、すばやく入れたほうが痛みが少ないです。



こちら側を先端におしりに

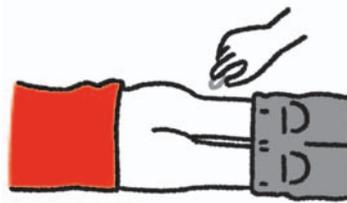


1/2 カット 2/3 カット 2/3 カット 3/4 カット

▶ 座薬の入れ方



乳児の場合はおむつ替えの要領で座薬を入れます



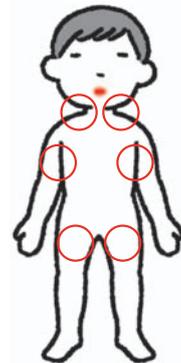
幼児の場合には横に寝かせた姿勢で入れます



動いてしまうおさんはハイハイの姿勢で入れることもできます

解熱薬によらない熱の下げ方

本人が嫌がらなければ首や脇の下、股などの大きな血管が走っている上を冷やしてあげることも可能です。



(田中純子)